

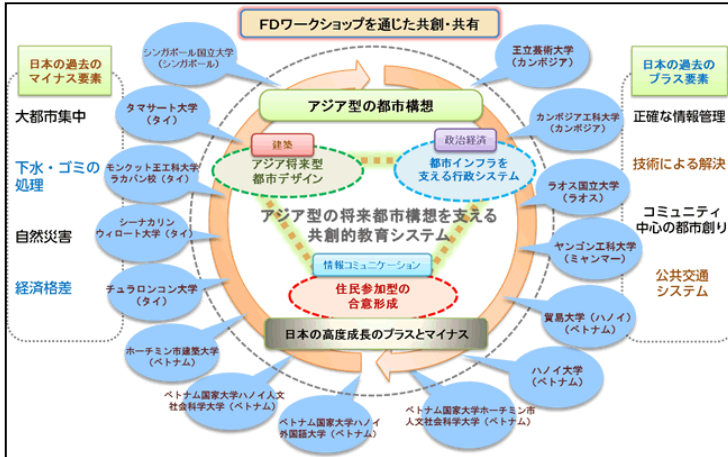
大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 明治大学 取組概要

【事業の名称】

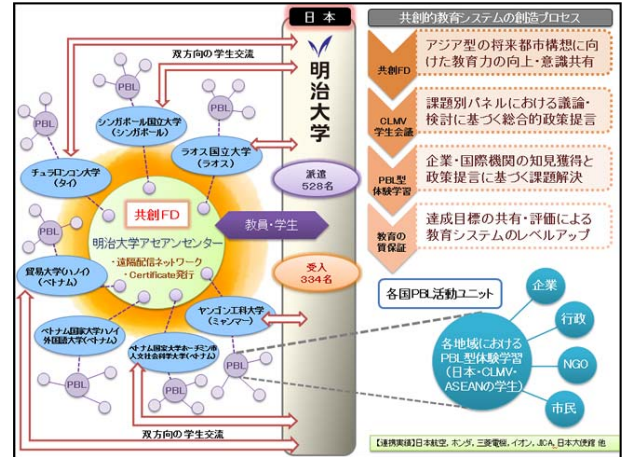
CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

【事業の概要】

《構想フェーズ》



《教育フェーズ》



【交流プログラムの概要】

本事業取組部局である政治経済学部、理工学部建築学科、情報コミュニケーション学部、理工学研究科建築学専攻においては、これまでの実績に基づき、質保証の伴った短期・中期・長期の交流プログラムを多層的に展開する。また、これらの交流プログラムに加えて、以下の取組を新たに実施することで、日本の過去の教訓を踏まえた「先進的なアジア型の将来都市構想」と、これを実現する「共創的教育システム」を創造する。

- (1)「明治大学アセアンセンター」における共創FDワークショップとCLMV 学生会議
- (2)企業・国際機関と学生との協働(PBL型体験学習)
- (3)教育の質保証とFD Certificateの発行

【本事業で養成する人材像】

日本の学生と発展途上にあるCLMV諸国の学生とが協働することで、(1)異なる視点から自国の問題を理解すると同時に、自国の問題の特殊性を自覚し、(2)経済や技術の発展段階を超えて共通の問題にアプローチできる専門知識や能力を養い、(3)言語や文化の違いを超えて現実的な合意や価値の形成(共創)を実現できる人材を養成する。具体的には、国連が提示した「持続可能な開発目標」に沿って、日本の高度経済成長の経験を教訓とし、各国・地域の都市化に適合したインフラ形成とこれを運営する社会インフラの意義を理解し、その発展に寄与できる人材を養成する。

【本事業の特徴】

本事業は本学、ASEAN・CLMV連携大学との協働で生み出す「構想フェーズ」、これを「先端的なFD」と「PBL型体験学習」を通じてCLMV連携大学の教育カリキュラムに実体化してゆく「教育フェーズ」の2つから構成され、上記の交流プログラムを実施することで、派遣528名、受入334名の相互交流、域内交流500名、遠隔配信による交流300名の交流を実現する。

【交流予定人数】

<タイプB>

	H28	H29	H30	H31	H32
学生の派遣	35	121	122	124	126
学生の受入	6	80	80	84	84

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【明治大学】

【事業の名称】

CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造(選定年度28年度・(タイプB ASEAN))

■ 交流プログラムの実施状況



インドシナ半島経済回廊周遊プログラム
タイ・シーナカリンウィロート大学との模擬国連の様子

本事業採択を契機として、海外連携大学との交流プログラム実施に係る協議を重ね、派遣・受入ともに当初計画していた交流プログラムを着実に実施しており、設定目標を達成している。

また、情報コミュニケーション学部では、本事業取組として、新たに「インドシナ半島経済回廊周遊プログラム」として、複数国(タイ、ベトナム、カンボジア)において海外連携大学との学生交流を実施するプログラムを開発・実施している。(学生14名派遣)

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成28年度の派遣プログラムでは、前述の新規プログラムの開発に加えて、取組部局それぞれがこれまでの実績に基づき、海外連携大学との交流プログラムを実施している。

政治経済学部はベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学及びベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学との短期交流プログラムを平成29年2月に実施し、14名の学生を派遣している。

また、理工学部及び理工学研究科は建築国際共同ワークショッププログラムとして、平成29年1月に学生9名を派遣し、タイ・チュラロンコン大学(学生7名)との学生交流を明治大学アセアンセンターにおいて実施した。平成29年3月には、ラオス国立大学との学生交流も同様に実施しており、学生4名を派遣している。(ラオス国立大学学生8名参加)

<タイプB>

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	35	37
学生の受入	6	6

○ 外国人留学生の受入

受入プログラムは、本事業採択時期が秋学期受入開始後であったため、本格的な開始は平成29年度を見込んでいる。

なお、平成28年度は受入プログラムとして、理工学部及び理工学研究科がタイ・チュラロンコン大学から4名、シンガポール国立大学から2名を受入れている。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

海外連携大学との交流プログラムに係る協議では、交流内容(学修内容)の質保証の考え方、カリキュラムの体系化等について意見交換を行っている。

また、理工学部及び理工学研究科では平成29年度以降実施する「共創FDワークショップ」の試行版を実施し、質保証等に係る共通認識を深めている。



共創FDワークショップ試行時の様子
(チュラロンコン大学、ラオス国立大学)
@明治大学アセアンセンター

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

上記のとおり、海外連携大学との協議を重ねており、派遣・受入ともに交流プログラム拡充を図っている。受入プログラムでは、国内版PBL型体験学習の実施に向けて、設計事務所や富山県立山町との観光事業等と連携した新規プログラムの開発を進めている。また、大学全体の受入学生への支援策として、和泉キャンパス隣接地に建設予定の混住型の学生寮建設計画を進めている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本事業の推進体制として、「持続可能な都市社会を支える共創人材育成プロジェクト会議」を設置し、取組部局間での情報共有を図るとともに、事業取組の進捗管理を行っている。また、本事業採択を契機に、事業広報ウェブサイト及び広報資料(日本語・英語)を制作し、海外連携大学や関係機関への広報活動を強化している。ウェブサイトでは広報資料の公開や平成29年度に実施する交流プログラムの広報等を行っている。

■ グッドプラクティス等

①情報コミュニケーション学部が「インドシナ半島経済回廊周遊プログラム」において、タイ・シーナカリンウィロート大学人文学部英語学科と共同で実施した模擬国連について、国際連合アカデミック・ジャパンのホームページに掲載され広く広報された。[\(https://www.academicimpact.jp/meiji/topics/2017/02/28173445/\)](https://www.academicimpact.jp/meiji/topics/2017/02/28173445/)

②情報コミュニケーション学部の本事業受入プログラムを、観光国際化を推進するための実験事業として活用することを富山県立山町に提案し、同町のコンペ大会で最優秀賞を獲得し、町の施策として実施することになった。<http://www.meiji.ac.jp/infocom/information/2016/6t5h7p00000mdnzv.html>

2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【明治大学】

【事業の名称】(CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造(選定年度28年度・タイプB ASEAN))

■ 交流プログラムの実施状況



〈FDワークショップ・CLMV学生会議
@明治大学アセアンセンター〉

平成29年度は、本事業採択後初めての取組として、取組部局の教員・学生及び交流先大学のうち8大学より教員・学生名をタイ・バンコクの明治大学アセアンセンターに招聘し、各国が抱える都市化に伴う問題点や課題を共有し、解決へ向けた提言を行うことを目指し、「共創FDワークショップ」、「CLMV学生会議」を実施した。

また、開催に合わせて「PBL型体験学習」の試行プログラムとして、現地国際機関へのフィールドワークを実施するとともに、日本・CLMV諸国の教員・学生による活発な議論を通じて、「アジア型の将来都市構想」に向けた意識共有を行った。

なお、上記の取組に加えて、海外連携大学との交流プログラムに係る協議も重ね、派遣・受入ともに当初計画していた交流プログラムを着実に実施している。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成29年度は、取組部局がこれまでの実績及び本事業の計画に基づき、海外連携大学との交流プログラムを継続して実施した。政治経済学部はベトナム諸大学及びタイ諸大学との短期・長期交流プログラムを実施し47名の学生を派遣している。理工学部及び理工学研究科は、チュラロンコン大学等に、学生43名を派遣するとともに、ワークショップにおいてカンボジア、ラオス、ベトナム等の6大学から合計20名以上の学生と交流した。情報コミュニケーション学部はベトナム国家大学ハノイ外国語大学やタイ・シーナカリンウィロート大学等に43名を派遣している。

〈タイプB〉

○ 外国人留学生の受入

平成29年度は、政治経済学部がタイ諸大学より21名、理工学部及び理工学研究科がチュラロンコン大学及びシンガポール国立大学から20名、情報コミュニケーション学部がベトナム国家大学ハノイ外国語大学やタイ・シーナカリンウィロート大学等より32名の受入を行った。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	121	133
学生の受入	80	73

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

海外連携大学との交流プログラムに係る協議では、交流内容(学修内容)の質保証の考え方等について引き続き意見交換を行っている。理工学研究科では夏期の2都市型WSの期間中に6校の教員により「共創FDワークショップ」の試行版を実施し、質保証やSDGs等に係る議論を深め、目標達成へ向けたアコードを取りまとめた。



■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

海外連携大学との協議を引き続き重ねながら、派遣・受入ともにより充実した〈国際交流プログラム報告会の様子@明治大学駿河台キャンパス〉交流プログラムの開発及び学生の受入環境の整備に取り組んでいる。大学全体の受入学生への支援策として、和泉キャンパス隣接地に混住寮(明治大学グローバルヴィレッジ)を建設し、2019年3月からの学生受入開始に向けて環境整備を進めている。また派遣学生に関しては、派遣期間中の危機管理にかかるトータルサポートサービス提供会社と本学が契約を結び、学生が派遣先での緊急時の事故受付や医療・救援サービス等のサポートが受けられる体制を全学的に整え、安全にプログラムが実施できるような環境の整備に努めている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

本事業の推進体制として、「持続可能な都市社会を支える共創人材育成プロジェクト会議」を定期的に実施し、取組部局間での情報共有を図るとともに、事業取組の進捗管理を行っている。本事業の広報資料(日本語・英語)の配布、事業広報ウェブサイトでのプログラムの報告の掲載に加え、2018年11月に明治大学において開催した「明治大学アカデミックフェス」(<http://www.meiji.ac.jp/gakucho/muaf2017/>)において、「Fly to the World」として報告セッションを設け、3部局が進めてきた各プログラム及び2017年8月にバンコクで開催された「CLMV学生会議」の報告を行った。これらの取組を通じて、事業取組の情報公開及び成果の普及を進めている。

■ グッドプラクティス等

①11月のアカデミックフェスでは、3つの取組み部局による合同の報告セッションを実施し、質保証へ向けたプログラム・レビューの機会を設けた。

②情報コミュニケーション学部の本事業受入プログラムにおいて、昨年、富山県立山町のコンペ大会で最優秀賞を獲得した提案の実証実験を町の施策として実施し、各種メディアに紹介された。

(<http://www.meiji.ac.jp/infocom/information/2017/6t5h7p00000oii3c.html>)